

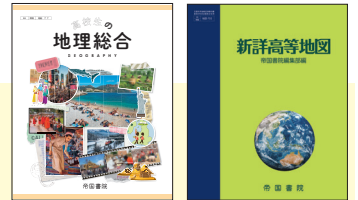


第2回 『高校生の地理総合』2部 1章「生活文化の多様性と国際理解」での地図帳活用

## 鳥瞰図から 「生活文化の多様性」をとらえる

田園調布学園中等部・高等部 山田 智之 (やまだ・ともゆき)

『高校生の地理総合』  
2部 1章  
『新詳高等地図』



### ■生活文化の学習の導入で鳥瞰図を活用する

地表面を上空から見下ろした様子を描いた鳥瞰図は、立体感や遠近感を視覚的にとらえやすく、土地の起伏や地域の特徴を把握しやすいように描かれている点の特徴である。図内には、実物を意識したイラストのような形で絵画的に各地の特徴が描き込まれているものもある。その分かりやすさから、観光案内図などで用いられることが多く、なかには歴史史料として価値を有するものもある。活用にあたっての注意点として、投影法に基づいて製作された地図とは異なり、距離や方向、面積を正しく示しているわけではないことから、場面に応じての使い分けが求められる。学習の際、生徒の興味や関心をひくきっかけとして鳥瞰図を用いるのが効果的である。

### ■3つの鳥瞰図の活用例

鳥瞰図を学習の導入時に使用する場合、最初に読み取り時間を設け、各自（またはグループ）が読み取った内容を自由に書き出させる（挙げさせる）ことから始める。この間、教員は机間巡視を通して、生徒が当該地域に対して持っているイメージやおおまかな関心の所在を確認できる。鳥瞰図内で読み取れることは無数にあるため、地域ごとに一例を示すとどめるが、『新詳高等地図』（以下、地図帳）p.11～12の「中国の鳥瞰図」（図1）では、中国の西部や北部に向かうにつれ色合いが大きく異なることから、自然環境の違いに気付かせたい。なお、『高校生の地理総合』（以下、教科書）p.76の「4 長江デルタにおける集落と水田」、「5 チベット高原のヤクの放牧」の写真を用いて、それぞれの景観がまったく異なることに気付かせ、鳥瞰図内のイラストと現実のイメージを徐々に近づけさせていくことも可能である。p.47～48の「ヨーロッパの鳥瞰図」（図2）では、歴史的な建築物（宮殿や宗教遺跡）が取り上げやすい。古代ギリシャ・ローマ時代の遺跡としてアテネのアクロポリスやローマのコロッセオを紹介できる。教科書p.119 ㉔にはバルテノン神殿の写真が掲載されており、こうした古代の文化のうえに、p.120～121で述べられているヨーロッパのキリスト教文化があることは、学習が進んだ際には指摘しておきたい事項である。p.77～78の「北アメリカの鳥瞰図」（図3）では、テーマパーク（ディズニーランド、ウォルト・ディズニー・ワールド）や映画産業（HOLLYWOOD）の話題が、生徒にとってはなじみやすいと考えられる。

セオを紹介できる。教科書p.119 ㉔にはバルテノン神殿の写真が掲載されており、こうした古代の文化のうえに、p.120～121で述べられているヨーロッパのキリスト教文化があることは、学習が進んだ際には指摘しておきたい事項である。p.77～78の「北アメリカの鳥瞰図」（図3）では、テーマパーク（ディズニーランド、ウォルト・ディズニー・ワールド）や映画産業（HOLLYWOOD）の話題が、生徒にとってはなじみやすいと考えられる。

### ■「生活文化の多様性」につなげるにあたっての留意点

「多様性」をとらえるために、鳥瞰図内から地域性につながる要素を見つける必要がある。中国では内陸の乾燥地帯にウイグル族やモンゴル族、高地にチベット族という形でイラストが描かれており、その地域の自然環境に応じた生活を営む少数民族が暮らしていることに気付かせたい。ヨーロッパ地域ではイベリア半島のアルハンブラ宮殿やトルコのイスタンブールなどから、イスラーム世界と接するヨーロッパ地域という視点が得られる。北アメリカ地域では農産物のイラスト（小麦・大豆・綿花・とうもろこし）が多いことに着目させられる。読み取りから多様性の理解へと切り替える際、生徒自身での発見は難しいため、最初は教員のほうから視点の手がかりを与える形がよいだろう。



『高校生の地理総合』p.119「㉔ 世界遺産アクロポリスのバルテノン神殿」





図1 「新詳高等地図」p.11～12〔①中国の鳥瞰図〕

### 授業ではこう使う！

色彩が大きく変わる箇所（ヒマラヤ山脈からホントワン山脈、ホワンツ高原付近）を確認させ、自然環境の変化を地形・気候の両面からとらえる。「② p.9-10 A-B間の断面図」で中国の「西高東低」の地形を、「③おもな都市の気温と降水量」の図ではラサとシャンハイの比較を通して乾燥地域と湿潤地域があることに気付かせる。

ラサとシャンハイの標高、降水量の差から「西高東低」の地形、乾燥と湿潤の地域による違いが読み取れます。



図2 「新詳高等地図」p.47～48〔①ヨーロッパの鳥瞰図〕

### 授業ではこう使う！

世界遺産となっている建築のイラストを2～3個取り上げ（例：ピサの斜塔、ヴェルサイユ宮殿、グリニッジ天文台）、由来を調べさせるなど、歴史への関心・理解につなげる。自然環境では、アルプス山脈の北側は平原、南側は起伏のある山脈や高原が発達する違いを、「② p.45-46 A-B間の断面図」を用いて着目させる。

アルプス山脈から南の地中海側は、ピレネー山脈やバルカン半島など起伏の見られる地形となっています。

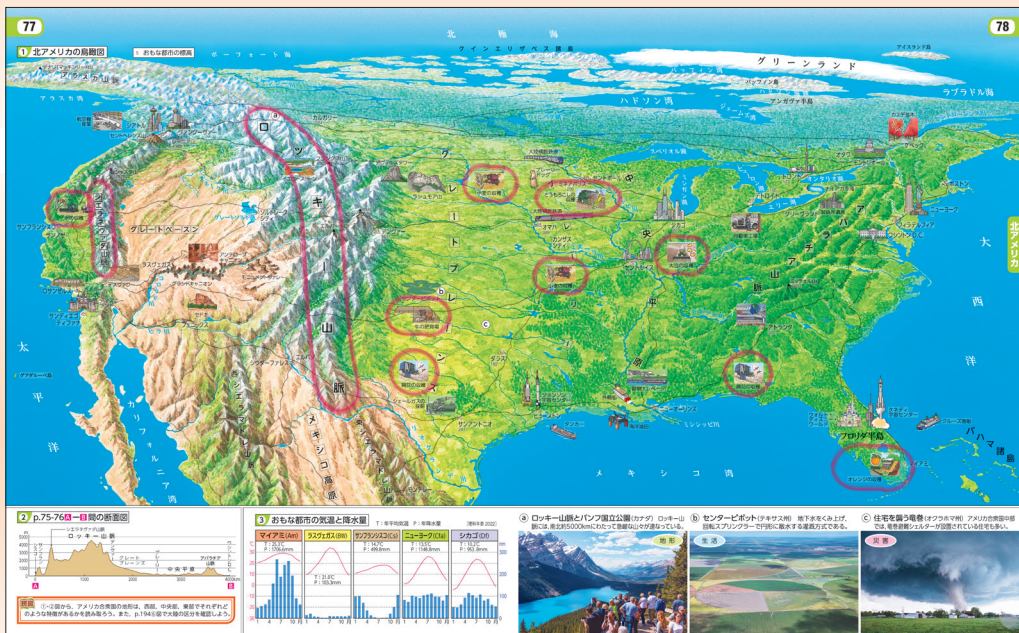


図3 「新詳高等地図」p.77～78〔①北アメリカの鳥瞰図〕

### 授業ではこう使う！

農産物のイラストが描かれているおおよその位置をつかんだ後、地図帳 p.85 の図「①農業地域区分」で、アメリカ合衆国の農業の特徴である「適地適作」の様子を確認させる。ロッキー山脈とシエラネヴァダ山脈に囲まれた地域は乾燥地帯となっており、東部と西部で自然環境が大きく異なることにも着目させる。

地図帳 p.85で、西経 100度の線を境に東側が混合農業やとうもろこし・大豆などの農業地域、西側が放牧や灌漑農業地域となることを確認しましょう。